命の危険が迫る緊急時の日本語学習者への呼びかけ表現について
－留学生のアンケート調査から－
Expressions for Calling Out to Japanese Language Learners in Life-Threatening Emergencies:
From a Survey of International Students

戸田あゆみ（関西大学国際部）
Ayumi Toda (Kansai University, Division of International Affairs)

要旨

近年、日本各地で地震が発生し、南海トラフ地震が予想されている。地震や津波などの緊急時のアナウンスや表記は重要なものである。本研究では、情報弱者である日本語学習者にとって日本語のどの表現がよく伝わるのかを分析した。結果は「逃げてください」が多くの日本語学習者にとって適切であると考えられていることが明らかになった。さらに、JLPT の取得レベルが低い人ほど、簡潔な表現である「逃げろ」が最適であると考えていることが確認できた。

キーワード　避難呼びかけ、表記、日本語学習者、日本語教育、メディア ／ The Announcement Calling for Evacuation, On-Screen Alert, Japanese Language Learners, Japanese Language Education, Media

1.　はじめに

1.1.　研究背景

近年、外国人観光客が増加している。今後も多くの外国人が日本を訪れることが予想される。さらに、国からの留学生の受け入れ目標は増加傾向にあり、海外からの多くの学生が一定期間日本に留まることが予想される。日本語教育の更なる発展に加え、これまでの教育を改めて考え直す機会になると考えられる。また、日本に長期間滞在する外国人や留学生が増加するなかで、多文化共生といった、より生活を意識した「社会と日本語学習者」という観点で日本語教育を考えることは必要である。なかでも、島国である日本の生活において、地震や津波をはじめ気候変動による台風や火事などの災害が起こる可能性を含めて考えることは重要なことである。

2024 年には能登半島地域で地震が発生し、東日本大震災以降、初めて大津波警報が発表された。テレビのニュースではアナウンサーが、念を押す意味が含まれる「今すぐ逃げること」という言葉を用い、強い口調で伝える場面があった。中島（2024）はこの呼びかけ表現を、「口調によっては、命令的なニュアンスが出る表現だと言える」と述べ、この表現の使用を視聴者のアンケートによって分析している。その視聴者アンケートでは、肯定的な意見が多かったという結果が記されている。また、能登半島地域の地震発生後に地震速報に切り替わった多数のメディアを自身でも検証した。表記では「逃げろ」や「逃げて」「津波危険」等が使用され、ピクトグラムの有無などメディア各々の対応が見られた。一方、日本語教育において荒瀬（2015）は、災害時に必要な語彙や具体的な指導が行われていない現状に触れ、留学生の災害についての既習歴（授業で学んだことがあるか）等をアンケートでまとめている。このなかで、学生が災害について学ぶ機会は少ないとし、学ぶ必要性を感じている学生が多くいることも明らかにしている。また、語彙の教育面では多くの学習者が「逃げる」という動詞を、初級テキストの後半で学んでいる。例えば、命令形の導入時に「危険

が迫った時に使用する言葉」として、「逃げろ」「走れ」「危険」等の語彙が導入される。これは多くの留学生が、学習を始めて半年以降にこれらの言葉を学ぶということである。いつ起きてもおかしくない地震と隣り合わせにある状況で、留学生や日本語学習者にとって、この状況が適しているのか疑問が生じる。頻繁に発生する地震や津波、台風等の危険な状況で発信される重要な言葉を、入国後の早い段階で学習することは重要である。

今回の研究では、様々な表現の中からどの表現が日本語学習者にとって最適であるかを明らかにする。そして、今後の防災教育を含めた日本語教育のあり方を提案するとともに、メディアでの情報発信で使用する表現方法を考察する。

1.2.　先行研究

緊急時の呼びかけについて、いくつかの先行研究がある。中島（2024）では、令和６年能登半島地震の際、番組内でアナウンサーが使用した「今すぐ逃げること！」（原文ママ）という呼びかけについて視聴者へ意識調査を実施し、9 割が肯定的であるとの回答を得ている。そして、「〇〇すること！」（原文ママ）という強い口調や表現は、緊急事態であることを伝えるためには有効な方法であると述べている。しかし、ここでは「〇〇すること！」等の強い口調について、使いすぎるとそのことばの効果が薄れてしまうことにも言及している。また、井上（2012）は東日本大震災の発生時に防災無線で津波からの避難を呼びかける際、命令調で行った自治体が複数あったことを記している。加えて、住民の避難の最後の後押しとしての防災無線の呼びかけについて論じている。この中で避難の命令について取り上げ、「法律上の命令」と「表現上の命令」とは区別すべきであるとも論じている。さらに、緊急事態において「逃げろ!」等の表現は、話し手の権限とは関係なく通常使われている日本語の一表現として考えるべきであると述べている。これらの研究はいずれも日本人を対象にした調査に基づいている。それに対し、留学生や日本語学習者についての緊急時の呼びかけや防災意識については、次のような研究がある。杉山（2019）は、災害時に高齢者、子ども、障害がある人とともに情報弱者になる外国人が孤立してしまうことに触れ、「やさしい日本語」の有効性を述べている。岩田（2017）は、災害時において日本に住む外国人には英語が思ったより通じないこと、わかりやすい日本語なら通じることを明らかにしている。日本語学習者の災害関連の研究において、「やさしい日本語」は重要であるため次項で取り上げて述べる。この他、飯嶋（2017）は、地震や津波に関する基本的な知識が不足している留学生がいるとともに、とくに津波に関しては認知度が低いという結果を得ている。そして、地震発生時の行動等の防災知識が十分でないことを明らかにしている。留学生の防災力に関しては高（2021）が、防災教育と避難訓練を受けた留学生は日本人より少なく、正しい地震の知識をもっている留学生も少なかったことを記している。そして、緊急時に適切な行動を取ることができないことも明らかにし、留学生に対する防災教育と避難訓練の重要性を述べている。このように、日本人に対する緊急時の呼びかけ表現や留学生の防災意識に関する調査はあるが、留学生や日本語学習者への緊急時の呼びかけ表現についての研究は極めて少ない。

1.3.　「やさしい日本語」について

阪神・淡路大震災で、日本にいた多くの外国人が日本語を十分に理解できず、必要な情報を得られないがために適切な行動を取ることできず被害が拡大した。そこで、震災をきっかけに非母語話者である外国人住民に、素早く的確に情報を伝える目的で「やさしい日本語」が考案された。昨今、多言語による情報発信が進んでいるが、情報が届いていない場合も多いことや全ての外国人住民に配慮した情報発信には限界があり、コストもかかることが指摘されている。また、何百という国や地域から来日している外国人に対し、英語が通じない場合が多いことや分かりやすい日本語であれば通じることも明らかになっている（岩田、2017）。

各自治体でも同様の調査が進められ「やさしい日本語」は「英語」よりも有効な手段であると位置づけているところも多い。また、幡手（2022）は東日本大震災時に防災無線で使用された語彙や表現を調査し、「やさしい日本語」のルールで防災無線を書き換えることは難解であると記している。これは「やさしい日本語」のルールが多いことなどが原因であると記載されている。しかし、「やさしい日本語」の研究においても、日本語学習者にとってどのような呼びかけが最適なのかは調査されていない。また、危険が迫っていることを瞬時に理解し、その後の行動に繋がる日本語の表現は何であるのかは調査されていない。今後、留学生や日本語学習者が増えると予想される日本で、外国人が瞬時に的確に理解できる日本語の呼びかけや表示でなければ被害が拡大する可能性は高まると考えられる。

2.　研究目的

本研究の目的は、命の危険が迫る緊急時の日本語学習者（情報弱者）への呼びかけ表現は何が最適かを明らかにすることである。その上で、日本語学習者の視点、日本語教育者の視点、発信側であるメディアの視点を取り入れながら、今後の多文化共生社会における日本語教育や情報発信のあり方を提案する。

3.　研究意義

現在も日本の各地で頻繁に地震が発生し、南海トラフ地震が予想されている。また、地震発生時の多言語での情報発信は進んでいるとはいえ、翻訳の言語数には限界がある。これらを考慮すると、日本語を母語としない外国人に、どのような日本語の表現を使用するのかという詳細な分析は必要である。

今回は、テレビ等のメディアのアナウンスや表記から情報を得る場面を想定して研究を進める。しかしながら、留学生はテレビやラジオを所有していない人が多い。アンケートでも緊急時の情報収集を含め、情報を調べる場合にはインターネットを使用する留学生が多いことが確認された。しかし、テレビ番組をインターネット端末で視聴できる機能は日々、進化している。また、繁華街には大型モニターがあったり外食した場合などに飲食店でテレビを視聴したりする機会もある。メディアから発信されるアナウンスや表記を見たり聞いたりすることは頻繁にあると思われる。また、今回の調査では、声や音声で発するアナウンス面と、目で見る情報としての表記面のどちらも調査する点などを考慮し場面を設定した。調査によって、道で行き交う観光客や近隣に住む日本語学習者に対しても、どのような呼びかけ表現を使用すればすぐに行動してもらえるのかを知る手掛かりになると考える。

4.　研究方法

今回は地震や津波などが発生し避難しなければならない状況を設定し、動詞の「逃げる」を用いて表現の調査を行った。中島（2024）では、「逃げる」と「避難する」を比べ、「津波から逃げる」という表現には、より危機的なニュアンスがあると記されている。また、日本語学習者にとって、聞く（アナウンス）と見る（表記）は同一であることが望ましいことからも、現在のメディアの表記として使用頻度が高い和語である「逃げる」を取り上げることにした。

アンケートは、敬語を含めた十の表現に①適切である②多少適切だと思う③あまり適切ではないと思う④適切ではないと思うという選択肢を提示し、その中から一つを選択する方式である。また、その中で最も使用してほしい表現を、アナウンスと表示のそれぞれで選択する質問も加えた。その後、最も使用してほしい表現について、その理由を記述するアンケートを実施した。記入前には、全員の前提認識が一致するようテレビでアナウンサーが緊急地震速報を読み上げる場面を写真で提示し、アナウンサーが発する言葉をアナウンス、画面に出る文字を表記と提示してからアンケートを実施した。分析では、各表現の回答をポイント制にし、平均値を求めて比較する方法と、最も使

用してほしい表現の回答から割合を算出する方法を用いた。また、学生の日本語能力レベルや滞在歴、国別でも分析を行った。なお、国別では中国人留学生 60 名、非漢字圏で主に東南アジアの留学生 30 名を抜粋し調査した。アンケートの集計・分析にあたっては SPSS（統計分析用ソフト）を利用した。

4.1.　調査参加者

関西のＡ大学とＢ大学の留学生（115 名）を対象にアンケートを実施した。出身国は中国（63 名）、ベトナム（15 名）、韓国（14 名）、ミャンマー（9 名）インドネシア（5 名）、台湾（3 名）、香港（1 名）、ロシア（1 名）、スウェーデン（1 名）、マレーシア（1 名）、パキスタン（1 名）、バングラデシュ（1 名）である。いずれも 20 代であり、日本滞在歴は 5 年以内である。今回、様々な表現を調査するため、選択肢に敬語を含んで設定した。そのため、調査参加者も敬語までを学習した大学１年生の日本語の授業を受講している留学生を対象に調査した。この背景には、留学生が近隣住民と話したことがなく、帰宅してからは孤立状態になる人が多いことが事前のアンケートで明らかになったからである。なかでも大学１年生は引っ越しして間もない人が多いことや、大学に友人ができていない人も多い。生活が安定していない学生にアンケートを実施することによって、自分事として捉え具体的な意見が聞けることを想定した。なお、アンケート対象者については田中・美野（2016）を参考にした。

4.2.　表現の役割

今回のアンケートでは動詞「逃げる」の表現について質問した。質問には「逃げます」、「逃げて」、「逃げる」、「逃げよう」、「逃げろ」、「逃げなさい」、「逃げてください」、「お逃げください」、「逃げましょう」、「逃げなければならない」を設定した。「逃げます」から「逃げろ」までは、丁寧なニュアンスが比較的含まれない簡潔な表現である。スリーエーネットワーク（2016b）では、命令形は「相手にある動作を強要するときに使う。非常に強い響きを持つので、使う場面は限られている」と記されている。留意点として、「多くは緊急時の指示、危険回避の指示として使われるため、確実に聞き取れるようになることが大切である」としている。「逃げなさい」から「逃げなければならない」の比較的丁寧で難易度の高い表現については、友松他（2010）などに記載されている表現の意味を付け加えておく。「逃げなさい」の表現は、「命令形をそのまま使う場合より丁寧で軟らかい命令文である。親と子の関係などで指示したり、試験の指示文などで使われたりする」と記されている。「逃げてください」は、グループ・ジャマシイ（1998）に「話し手（または話し手側の人）のために誰かが何かの行為をするよう依頼したり、指示したり、命令したりする表現」と記載されている。スリーエーネットワーク（2016a）では、「３つの機能がある。指示、依頼、勧めである」とし、指示の意味では目上の人には使わないことが明記してある。なお、「て形」の学習時には単独の意味ではなく、「ください」を付け足したかたちでの意味や導入方法が記されている。「お逃げください」は、友松他（2010）によると「公の場所でよく使われる勧めや指示の簡潔な言い方」と記載されている。「逃げましょう」は、「積極的に相手を誘う、またはそうするように呼びかけるときの使い方である」と記され、さらに「V よう」の丁寧な言い方と明記されている。「逃げなければならない」は、「社会常識などから見て、必要なことや義務を表わす言い方であり、一般的な判断を言うことが多い」と記載されている。

5.　アンケート調査結果の分析

5.1.　平均値による比較

この調査では、各表現の回答の選択肢にポイントを定め、平均値を求めた（表 1-1 から 1-10）。その後、どの表現が最も受け入れられるのかを比較する。

表1-1　留学生全体のアナウンスの平均値

	Q1(1)逃げます	Q1(2)逃げて	Q1(3)逃げる	Q1(4)逃げよう	Q1(5)逃げろ	Q1(6)逃げなさい	Q1(7)逃げてください	Q1(8)お逃げください	Q1(9)逃げましょう	Q1(10)逃げなければならない
平均値	2.12	2.72	2.17	2.51	2.97	2.91	3.25	2.37	2.35	2.38
標準偏差	0.98	0.97	0.98	0.95	1.15	1.05	0.99	1.05	1.01	1.02

表1-2　留学生全体の表記の平均値

	Q2(1)逃げます	Q2(2)逃げて	Q2(3)逃げる	Q2(4)逃げよう	Q2(5)逃げろ	Q2(6)逃げなさい	Q2(7)逃げてください	Q2(8)お逃げください	Q2(9)逃げましょう	Q2(10)逃げなければならない
平均値	2.24	2.71	2.25	2.56	3.02	3.03	3.40	2.49	2.41	2.39
標準偏差	1.04	0.98	0.95	0.92	1.04	0.95	0.88	1.06	1.02	1.04

表1-3　JLPT別　留学生のアナウンスの平均値

	Q1(1)逃げます	Q1(2)逃げて	Q1(3)逃げる	Q1(4)逃げよう	Q1(5)逃げろ	Q1(6)逃げなさい	Q1(7)逃げてください	Q1(8)お逃げください	Q1(9)逃げましょう	Q1(10)逃げなければならない
N1	1.98	2.63	1.98	2.40	3.02	3.13	3.42	2.42	2.33	2.27
標準偏差	0.97	0.90	0.92	0.95	1.05	0.88	0.91	1.08	0.96	0.99
N2	2.20	2.74	2.23	2.63	3.00	2.57	3.11	2.23	2.26	2.37
標準偏差	0.95	1.02	0.90	1.07	1.24	1.15	1.04	1.12	1.13	1.02
N３,未	2.25	2.84	2.38	2.56	2.88	2.97	3.16	2.44	2.47	2.56
標準偏差	1.00	1.00	1.08	0.79	1.19	1.06	1.03	0.90	0.93	1.03

表1-4　JLPT別　留学生の表記の平均値

	Q2(1)逃げます	Q2(2)逃げて	Q2(3)逃げる	Q2(4)逃げよう	Q2(5)逃げろ	Q2(6)逃げなさい	Q2(7)逃げてください	Q2(8)お逃げください	Q2(9)逃げましょう	Q2(10)逃げなければならない
N1	2.21	2.54	2.15	2.46	3.10	3.10	3.46	2.46	2.40	2.46
標準偏差	0.97	0.90	0.92	0.95	1.05	0.88	0.91	1.08	0.96	0.99
N2	2.23	3.03	2.34	2.74	3.06	3.00	3.31	2.34	2.34	2.26
標準偏差	1.02	0.88	0.92	1.00	1.04	0.79	0.92	1.01	1.09	0.94
N３,未	2.31	2.63	2.31	2.50	2.84	2.97	3.41	2.69	2.50	2.44
標準偏差	0.98	0.89	0.85	0.90	1.15	1.02	0.93	1.01	0.94	1.12

表1-5　日本滞在歴別　留学生のアナウンスの平均値

	Q1(1)逃げます	Q1(2)逃げて	Q1(3)逃げる	Q1(4)逃げよう	Q1(5)逃げろ	Q1(6)逃げなさい	Q1(7)逃げてください	Q1(8)お逃げください	Q1(9)逃げましょう	Q1(10)逃げなければならない
１年以内	2.00	2.70	2.15	2.48	2.78	2.89	3.19	2.15	2.22	2.41
標準偏差	0.90	0.89	1.03	0.80	1.20	0.89	1.10	1.05	1.05	0.92
１年半以上	2.16	2.73	2.17	2.52	3.03	2.92	3.27	2.43	2.39	2.38
標準偏差	1.00	0.99	0.97	0.99	1.12	1.10	0.96	1.04	1.00	1.05

表1-6　日本滞在歴別　留学生の表記の平均値

	Q2(1)逃げます	Q2(2)逃げて	Q2(3)逃げる	Q2(4)逃げよう	Q2(5)逃げろ	Q2(6)逃げなさい	Q2(7)逃げてください	Q2(8)お逃げください	Q2(9)逃げましょう	Q2(10)逃げなければならない
１年以内	2.15	2.52	2.19	2.56	3.00	3.30	3.48	2.33	2.48	2.33
標準偏差	1.03	1.01	0.88	0.89	1.00	0.94	0.93	1.03	1.08	1.10
１年半以上	2.27	2.77	2.27	2.56	3.02	2.95	3.38	2.53	2.39	2.41
標準偏差	1.05	0.96	0.97	0.94	1.06	0.94	0.87	1.07	1.00	1.02

表1-7　中国人留学生のアナウンスの平均値

	Q1(1)逃げます	Q1(2)逃げて	Q1(3)逃げる	Q1(4)逃げよう	Q1(5)逃げろ	Q1(6)逃げなさい	Q1(7)逃げてください	Q1(8)お逃げください	Q1(9)逃げましょう	Q1(10)逃げなければならない
平均値	2.17	2.73	2.27	2.40	3.08	2.98	3.08	2.22	2.13	2.13
標準偏差	1.02	0.93	0.98	0.88	1.02	0.99	1.00	0.91	0.96	0.94

表1-8　中国人留学生の表記の平均値

	Q2(1)逃げます	Q2(2)逃げて	Q2(3)逃げる	Q2(4)逃げよう	Q2(5)逃げろ	Q2(6)逃げなさい	Q2(7)逃げてください	Q2(8)お逃げください	Q2(9)逃げましょう	Q2(10)逃げなければならない
平均値	2.43	2.75	2.40	2.35	2.87	2.95	3.17	2.48	2.08	2.42
標準偏差	1.02	0.96	0.95	0.89	1.01	0.90	1.00	1.06	0.99	0.99

表1-9　東南アジア留学生（非漢字圏）のアナウンスの平均値

	Q1(1)逃げます	Q1(2)逃げて	Q1(3)逃げる	Q1(4)逃げよう	Q1(5)逃げろ	Q1(6)逃げなさい	Q1(7)逃げてください	Q1(8)お逃げください	Q1(9)逃げましょう	Q1(10)逃げなければならない
平均値	2.07	2.90	2.17	2.60	3.17	2.62	3.37	2.40	2.27	2.57
標準偏差	0.85	0.94	0.93	1.02	1.19	1.10	0.87	1.14	0.93	0.99

表1-10　東南アジア留学生（非漢字圏）の表記の平均値

	Q2(1)逃げます	Q2(2)逃げて	Q2(3)逃げる	Q2(4)逃げよう	Q2(5)逃げろ	Q2(6)逃げなさい	Q2(7)逃げてください	Q2(8)お逃げください	Q2(9)逃げましょう	Q2(10)逃げなければならない
平均値	2.33	2.93	2.07	2.60	3.10	3.00	3.63	2.53	2.47	2.70
標準偏差	1.04	0.85	0.77	0.92	1.11	0.93	0.60	1.09	0.96	1.00

5.1.1.　A 大学、B 大学合わせて 115 名の留学生（留学生全体の平均スコア）

まず、留学生全体の 115 名分の回答から各表現の平均値を求めた。平均値を表にしたものが、表 1-1（アナウンス）と表 1-2（表記）である。結果を見ると、アナウンスでは「逃げてください」の点数が 3.25 と最も高かった。次いで、「逃げろ」が 2.97 で二番目に高かった。表記では、「逃げてください」が平均値 3.40 で最も高い結果となった。

5.1.2.　A 大学、B 大学合わせて 115 名の留学生（JLPT 別 留学生の平均スコア）

次に、取得した日本語能力試験（以後、JLPT）のレベル別で平均値を求めた。N1 取得者 48 名、N2 取得者 35 名、N3 取得者と未受験者 32 名を調査した。平均値を表にしたものが、表 1-3（アナウンス）と表 1-4（表記）である。その結果、アナウンス、表記ともに「逃げてください」の値が最も高かった。

5.1.3.　A 大学、B 大学合わせて 115 名の留学生（日本滞在歴別）

また、日本の生活に慣れることで、日本でよく使用される表現が自然に記憶に残っていることが考えられるため、日本の滞在歴別でも平均値を求めた。平均値を表にしたものが、表 1-5（アナウンス）と表 1-6（表記）である。日本滞在歴１年半以上と１年以内の平均値では、アナウンス、表記ともに滞在歴の長さに関係なく「逃げてください」の平均値が最も高い結果となった。

5.1.4.　中国人留学生 60 名の場合

留学生の中でも出身国割合が高い中国人のみでも平均値を求めた（表 1-7、表 1-8）。アナウンスでは「逃げろ」と「逃げてください」の平均値が同じで、表記では「逃げてください」の値が最も高い結果となった。

5.1.5.　東南アジアの留学生 30 名の場合

さらに、漢字圏（中国人のみ）と比較し分析するため、非漢字圏である東南アジアの学生のみでも平均値を求めた（表 1-9、表 1-10）。ベトナム（15 名）、ミャンマー（9 名）、インドネシア（5 名）、マレーシア（1 名）の合計 30 名分のアンケートの回答から平均値を求めた。結果は表の通りである。留学生全体の結果と同じく「逃げてください」の値が最も高くなり、値はアナウンスが「3.37」、表記が「3.63」であった。

5.2.　留学生（日本語学習者）が最も使用してほしい表現の分析

留学生全体、レベル別、滞在歴、中国人のみ、非漢字圏のみのいずれも、平均値が最も高かったのはアナウンス、表記ともに「逃げてください」であった。この結果から、多くの日本語学習者が「逃げてください」を適切であると考え、緊急時の使用を肯定的に受け止めていることが確認できた。

しかし、中国人留学生のアナウンスについては「逃げろ」と「逃げてください」が同じ値である点や、全ての区分で「逃げてください」の値が高くなった点について最適かどうかを示すには決定的ではないと思われる。より詳細に見ていくことが必要であると考え、アンケート内の問いである「一番使ってほしい表現を選択する」という設問についても分析する。

5.2.1.　A 大学、B 大学合わせて 115 名の留学生（全体）

この調査では、最も使用してほしい表現を選択するアンケートの分析により、表現の嗜好性を明らかにする。まず、留学生全体の 115 名分のアンケートの「一番使ってほしい表現」の回答を抽出し調査した。回答の割合を示したものが、図 1-1（アナウンス）と図 1-2（表記）である。結果を見ると、アナウンスでは、「逃げろ」が全体の 40.9%（47 名）と最も多く、「逃げてください」は 36.5%（42 名）で二番目となった。この順番は、表 1-1

の平均値の結果の順番と逆転している。この点については、後述するJLPTのレベル別や滞在歴別の調査結果と合わせて考察していきたい。表記では、「逃げてください」が全体の 35.7%（41 名）で、平均値と同じく最も高い結果となった。二番目は「逃げろ」で、23.5%（27 名）であり、「逃げてください」と大きな差が見られた。

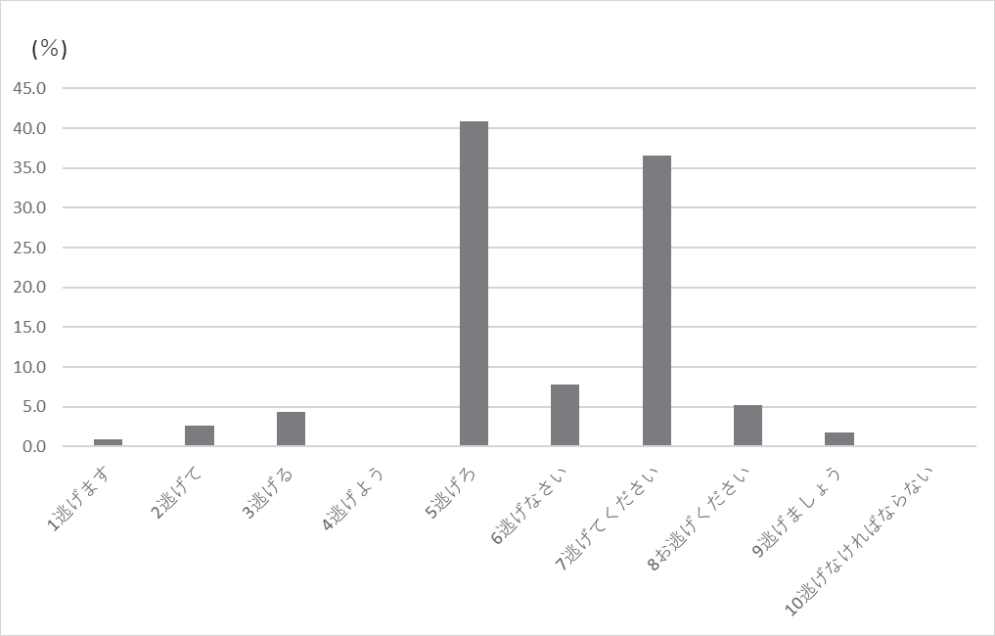

図 1-1　アナウンスで最も使用してほしい表現（留学生全体）

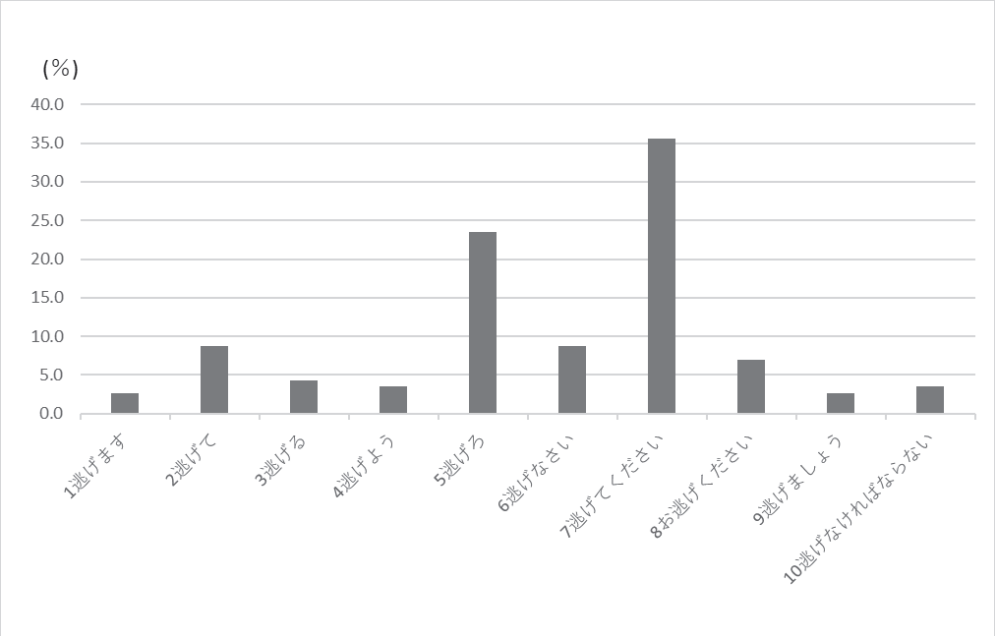

図 1-2　表記で最も使用してほしい表現（留学生全体）

5.2.2.　A 大学、B 大学合わせて 115 名の留学生（JLPT 別）

次に、取得している JLPT 別で比較した。N1 取得者 48 名、N2 取得者 35 名、N3 取得者と未受験者 32 名を調査した。N１取得者がアナウンスで最も使用してほしいのは、「逃げてください」の 43.8%（21 名）が最も高かった。しかし、N2 取得者と、N3 取得者と未受験者がアナウンスで最も使用してほしいと選択したのは「逃げろ」で、それぞれ N2 取得者で 54.3%（19 名）、N3 取得者と未受験者が 40.6%（13 名）で最も高かった。表記では、N1 取得者の 42.7%（20 名）、N2 取得者の 40.0%（14 名）が「逃げてください」を最も使用してほしいと選び、次点の「逃げろ」との差は大きかった。N3 取得者と未受験者は、「逃げろ」を選択する人が 28.1%（9 名）で最も高い結果となった。これらの結果からアナウンス、表記ともに、JLPT の取得レベルが低い人は、命令形で強く短い表現が最適であると考えていることが明らかとなった。

5.2.3.　A 大学、B 大学合わせて 115 名の留学生（日本滞在歴別）

また、日本の滞在歴別でも調査し比較した。日本滞在歴１年半以上と１年以内に分けて調査した結果、日本滞在歴１年半以上の学生はアナウンスで「逃げろ」を選んだ割合が 40.9%（36 名）で最も高かった。日本滞在歴１年以内の学生はアナウンスで「逃げろ」と「逃げてください」を選んだ割合がともに 40.7%（11 名）で最も高かった。さらに、日本滞在歴 2 年以上の学生に限定すると、アナウンスで「逃げろ」を選んだのが 54.7%（30 名）で最も高い結果となった。しかし、次点の「逃げてください」との割合の差は小さく、規則性がなかった。滞在歴の長短によって、使用してほしい表現が変わらないことが確認できた。つまり、アナウンスでは滞在歴によって表現を変える必要はないと考えられる。加えて表記では、平均値や全体の割合と同じく「逃げてください」の使用が最適であると考える人の割合がいずれの滞在歴でも最も高かった。この調査から、留学生が使用してほしい表現は、日本の滞在歴やその期間に身に付いた日本文化、習慣とは関係性が弱いと考えられる。

5.2.4.　中国人留学生 60 名の場合

中国人留学生 60 名のみを抽出し分析した。その結果、アナウンス面では、「逃げろ」を使用してほしい人が 46.7%（28 名）で最も高く、次いで「逃げてください」が 28.3%（17 名）であった。平均値（表 1-7）では中国人留学生の 70%以上が「逃げろ」「逃げてください」のどちらの表現も肯定的に受け止めているが、最も使用してほしい表現を選択するとなると「逃げろ」の割合が高い結果となった。この他、留学生全体の結果をふまえ JLPT のレベル別、滞在歴、学習歴でも抽出し算出したが、アナウンスではいずれの場合も「逃げろ」を最も使用してほしいという結果となった。このことから、中国人留学生にとっては緊急時のアナウンスとして命令形の「逃げろ」が最適であり、敬語が使用されない点についても肯定的であることが分かった。緊急時である場合、強く短く明確である表現がよいという点においては、中国人がストレートに伝える表現を好む文化的な背景が関係している可能性がある。この点の理由については、今後の課題である。

表記については、「逃げてください」を使用してほしい人が 28.3%（17 名）で最も高かった。平均値ではこの問いについて、適切だと思う（50%）、多少適切だと思う（27%）と回答していることから、全体の４分の３以上の人が「逃げてください」を肯定的に受け止めた上で、最も使用してほしいと考えていることが明らかとなった。また、JLPT の取得レベル別で表記面を見た場合、N1,N2 取得者は「逃げてください」を選択する割合が高く、N3 取得者と未受験者は「逃げろ」を使用してほしい人の割合が高い結果となった。表記面では JLPT の取得レベルが低い学生が、短く強い表現である命令形の「逃げろ」を使用してほしいことが明らかとなった。

5.2.5.　東南アジアの留学生 30 名の場合

ベトナム 15 名、ミャンマー9 名、インドネシア 5 名、マレーシア 1 名の合計 30 名で分析した。ここでも留学生全体の結果をふまえ、非漢字圏の日本語学習者全体と JLPT の取得レベル別で調査し分析した。東南アジアの学生はアナウンスでは「逃げろ」が 43.3%（13 名）で最適であると考える人の割合が最も高く、表記では「逃げてください」が 33.3%（10 名）で最も高い結果となった。この結果は、漢字圏である中国人のみの調査や留学生全体の調査と同じであり、緊急時の表現においては、漢字圏、非漢字圏でアナウンスや表記を分ける必要はないと考えられる。JLPT のレベル別では、アナウンス面で N2 以下の学生は「逃げろ」が最適だと考える割合が最も高く、N1 以上の学生は「逃げてください」などの丁寧な表現が最適だという結果となった。アナウンス面においては、JLPT の取得レベルが低い学生の方が「逃げろ」を使用してほしいという結果となった。表記では、どのレベルの学生も「逃げてください」の割合が高く、非漢字圏の学生全体で調査した結果と大きな差はなかった。

5.3.　記述式による回答

5.3.1.　アナウンスの表現「逃げてください」を選んだ理由

この調査では、5.1 と 5.2 の量的結果で得た理由の心理的な背景を明らかにする。

アナウンスの表現で、最も使用してほしい表現に「逃げてください」を選択した人の理由を以下に列挙する（原文ママ）。

・他より聞きやすい、「逃げろ」よりも丁寧だから
・丁寧で落ち着いた口調なので、明確で分かりやすい指示をして、行動を促す力もある。「逃げろ」や「逃げなさい」よりも不安や恐怖感がない
・他よりも聞いている人は冷静になれると思う
・緊急時にきちんと「お逃げ下さい」というのも無理そうだ。普通の人なら「逃げて！」となると思うが、テレビ等ではせめて「逃げてください」を使用してほしい。（必要最低限）など

5.3.2.　アナウンスの表現「逃げろ」を選んだ理由

アナウンスの表現で、最も使用してほしい表現に「逃げろ」を選択した人の理由を以下に列挙する（原文ママ）。

・簡単な N5 程度の日本語である。分かりやすいし、緊急事態という現状も伝えられる
・映画やアニメでよく聞いているので、聞きなれていて「逃げろ」を聞くと危機感が感じられる
・「逃げろ」という表現が他よりも多少乱暴に思われるかもしれないが、それがむしろ他人にははっきりと伝えることができると思うから
・命令形の表現で緊急の時だけ使うと思う。緊張感が感じられる
・アナウンスなので、より早くより簡単な言い方で伝える方がいい
・なにより簡単明瞭　など

5.3.3.　表記の表現「逃げてください」を選んだ理由

表記の表現で、最も使用してほしい表現に「逃げてください」を選択した人の理由を以下に列挙する（原文ママ）。

・書く場合は、普段よく見る「ください」を使う方がよりすぐ反応できる
・書いてある文字なので、強力な表現の中でも、できるだけ敬語の方が適切ではないかと思いました
・最初に日本語を勉強した時に、「～てください」という文法が出てきたので、一番記憶に残っているから。日本の初級レベルであり、日本語があまりできなくても「逃げてください」を見たら何とか分かると思うからです。
・他よりも安心できるから
・親切感があるから　など

6.　研究結果

6.1.　アナウンスの表現　多くの日本語学習者に肯定的に受け止められる「逃げてください」と、限定された「逃げろ」の使用

声や音声で伝えるアナウンスの各表現の平均値

を求め比較した結果、「逃げてください」を使用することは全体的に多くの日本語学習者にとって肯定的で適切であると考えられていることが確認された。また、JLPT のレベル別で見ると、取得レベルが N1 以上の学生は「逃げてください」を使用することが最適であると考える割合が高かった。記述式の回答から分析しても、「逃げてください」を選択した人は、丁寧な表現であるほうが緊急時に精神的に安心できるということが示された。一方、JLPT の取得レベルが N2 以下の学生は、はっきりと緊急時であることが認識でき、簡潔な表現である命令形の「逃げろ」を使用することが最適であると考えていることが明らかとなった。

6.2.　表記の表現　「逃げてください」が最適である

文字情報である表記は「逃げてください」を使用することが、多くの日本語学習者に適切であると考えられ、肯定的に受け止められることが明らかとなった。また、留学生（全体）の調査では、JLPT の取得レベルが低い人ほど「逃げろ」が最適であると考えていることが明らかとなった。アナウンス面と類似した結果であることは注目すべきである。

7.　まとめ・展望

本論では、留学生のアンケートを分析し日本語学習者の視点で緊急時のアナウンスと表記において、どの表現が最適かを明らかにした。平均値ではアナウンス、表記ともに「逃げてください」という表現が適切であると考えられ、肯定的に受け止められていることが示された。また、さらに分類し、見ていくことで JLPT の取得レベルが低い人は命令形で強く簡潔な表現である「逃げろ」を使用してほしいことが判明した。今後の多文化共生社会を見通し、留学生や日本語学習者と日本人との歩み寄りは必要不可欠であると考える。これらのことから、メディア視点や日本語教育の視点で提案する。

まずメディア視点では、アナウンスで「逃げてください」を使用し、表記では「逃げてください」もしくは、「逃げて」を使用することが望ましいと考えられる。平均値の分析結果と記述式アンケートの結果から、全体的に多くの日本語学習者が「逃げてください」の使用を適切であると考えていることが確認できた。アンケートには「丁寧だから安心する」「メディア側が伝えるマナーとして」といった回答を得た。これらを考慮し、多くの視聴者に発信するメディアの観点から、日本語学習者全体に肯定的に受け止められている表現を使うことが望ましいと考える。また、分類後の分析では JLPT レベルが高い人は「逃げてください」という丁寧な表現が最適だと考えていることが明らかとなった。日本語学習者のなかでも上級者が視聴するテレビやラジオでは、丁寧な表現が最適であると考えられる。しかし、聞き慣れた表現でもあるため強い口調で伝えるなどアナウンス面では伝え方に工夫が必要である。そこで、アナウンスでは「逃げて、逃げてください、今すぐ逃げてください」等「逃げて」を含めた言葉を初めに繰り返し伝えることや、声の大きさを次第に強く大きくしていくことを提案の一つとしたい。中島 (2024) の調査にあるように、強い口調によって「怖い」と感じた人がいたことから、伝え方は今後も工夫が必要である。

また、表記については指示や勧める機能がある「逃げてください」の使用を検討しながら、「逃げて」を使用していくことが望ましいと思われる。テレビでは画面に映せる範囲があるため、「逃げてください」を使用すると文字が小さくなったり、他の情報が見えなくなったりする障害が出てくることが予想される。さらに、日本語学習者にとってアナウンスと表記は同じであることが情報の理解として望ましい点などを含め、「逃げて」の表記に統一することが最適であると思われる。さらに、ひらがなのルビをふることを必須とし、「逃げてください」の使用も検討が必要である。一方で、留学生の使用頻度が高いインターネットでは、「逃げろ」を積極的に使用する必要がある。JLPT の取得レベルが低い人も利用するインターネット端末

では、短く簡潔な表現を使用することが望ましいと考えられる。命令表現は小池他（2002）で、「話し手が聞き手に対し、一方的にある状態や行動の実行を指示する表現」と記載されている。しかし、井上（2012）では避難の命令について取り上げ「法律上の命令」と「表現上の命令」とは区別すべきであることの重要性を論じている。さらに、調査により防災無線ではすでに命令形の「逃げろ」や「避難せよ」などの言葉が用いられていることを記載している。日本語学習者がよく利用するメディアについては、アナウンス、表記ともに「逃げろ」の使用を前向きに検討していく必要がある。加えて、法律などの制限がない近隣住民間での緊急時の呼びかけには「逃げろ」を使用することが有効である。今回の分析結果を参考に、日本語レベルが分からない人に対しては、丁寧な表現よりも簡潔で危険度の強さが分かりやすい表現を使用することが望ましいからである。

最後に日本語教育としては、多くの日本語学習者が「逃げてください」を適切だと考えている結果に注目しなければならない。分析結果では、アナウンスで「逃げてください」の次に「逃げろ」の表現が多くの日本語学習者に適切だと考えられていることも確認できた。しかし、記述式のアンケートにより、命令形の学習時に初めて動詞の「逃げろ」や「地震」「危険」などの名詞が導入されることが大きく関係していることが考えられる。つまり、「逃げろ」という命令形が、危険なイメージや災害と関連があるということがすでに刷り込まれている可能性がある。今後は動詞の「逃げる」をより早い段階で導入することや、「て形」の導入時に「逃げて」や「逃げてください」を積極的に取り入れていくことを検討する必要がある。もしくは、オリエンテーションなどで防災対策として別の時間を作り、導入することが望ましいと考える。よって、今後は「て形」や「～てください」の学習をさらに充実させていくことが重要である。「て形」の学習時には導入に時間をかける教師が多い。その過程のなかに、緊急時の身を守る言葉が導入されることで、学習に集中してもらいやすくなることが期待できる。留学生が日本に来て半年の間に地震や津波などの危険に遭遇することは大いに考えられるため、学習が早いことに問題はない。今後は「て形」の理解度、伝わり方なども調査したい。

参考文献

荒瀬雅子（2015）「災害時の『やさしい日本語』を教室教材として使用する方法を探る－ラジオ放送用災害時音声素材を中心に－」『龍谷大学国際センター研究年報』24,21-34.

高誉文（2021）「私立大学Ａにおける留学生の防災力に関する研究－日本人学生と比較して－」『未来共生学』8, 233-252.

グループ・ジャマシイ（1998）『教師と学習者のための日本語文型辞典』くろしお出版.

幡手千華（2022）「防災無線における『やさしい日本語』の有効性」『日本語教育方法研究会』29(1), 24-25.

飯嶋香織（2017）「留学生の防災意識－質問紙調査の結果から－」『神戸山手大学紀要』19,1-10.

井上裕之（2012）「防災無線で『命令調』の津波避難の呼びかけは可能か－聞き手に伝わる表現の視点から－」『放送研究と調査』62(11),2-15.

岩田一成（2017）「災害時の『やさしい日本語』を使うために日ごろから気を付けること」『文体論研究』63, 85-87.

小池清治・小林賢次・細川英雄・山口佳也編（2002）『日本語表現・文型辞典』朝倉書店.

中島沙織（2024）「『今すぐ逃げること！』という呼びかけ表現－能登半島地震における津波からの避難呼びかけ全国調査から－」『放送研究と調査』74(6), 30-41.

杉山明枝（2019）「大規模災害時における『多言語』としての『やさしい日本語』」『大妻女子大学紀要』28, 113-121.

スリーエーネットワーク編著（2016a）『みんなの日本語　初級Ⅰ　第２版　教え方の手引き』スリーエーネットワーク.

スリーエーネットワーク編著（2016b）『みんなの

日本語　初級Ⅱ　第２版　教え方の手引き』スリーエーネットワーク.
田中英輝・美野秀弥（2016）「ニュースのためのやさしい日本語とその外国人日本語学習者への効果」『情報処理学会論文誌』57(10), 2284-2297.
友松悦子・宮本敦・和栗雅子（2010）『新装版　どんなときどう使う　日本語表現文型辞典』アルク.